

## 2015 年度第 1 回理事会 議事録

開催日時および開催場所：2015 年 5 月 9 日 14：15-18：30 東京都文京区，東京大学地震  
研究所 1 号館 3 階。

出席者：井口正人，篠原宏志，市原美恵，宇都浩三，北川貞之，下司信夫，嶋野岳人，千  
葉達朗，中田節也，西村太志，橋本武志，藤田英輔，萬年一剛，吉本充宏，（14 名）。

### 議題

#### 第 1 号議案 平成 26 年度決算・平成 27 年度予算（財務）

平成 26 年度決算・平成 27 年度予算について，篠原委員が報告した。平成 26 年度決算は，  
経常収入 1280 万円，支出 1720 万円であり，次年度への繰越金は 1260 万円であ  
る。支出のうち，該当年度に特有の案件であるアジアコンソーシアムへの支出 260 万円  
と 60 周年記念事業への支出が 320 万円を占めるため，経常的経費としての収入支出の  
差額は約 120 万円である。平成 26 年度決算については監査結果についても合わせて報  
告され，委員会提案通りに理事会で承認された。

平成 27 年度予算については，財務委員より内容についての説明がなされた。本議案につ  
いては，具体的な予算配分についての資料が不足していたため，本理事会では財務委員会  
からの内容説明と質疑のみを行い，メール審議を開催し具体的な配分についての資料を改め  
て配布し，議決することです承された。

#### 第 2 号議案 各賞表彰（各賞）

日本火山学会賞，研究奨励賞，及び論文賞について，各省選考委員会における選考経緯及  
び結果について宇都委員が報告した。各賞選考委員会からは，日本火山学会賞については  
高橋栄一氏および林信太郎氏を推薦する，また日本火山学会奨励賞については，自薦及び  
他薦によってあげられた 5 名の候補者の中から，前田裕太氏（名古屋大学），柵山徹也氏（大  
阪市立大）吉村俊平氏（山形大学）を推薦する。日本火山学会論文賞については，伊藤順  
一ほか（2014）「最近 5000 年間の九重火山における水蒸気噴火の発生履歴」（火山掲載  
論文），および Nakao Shigeru et al. (2014) “Volume change of the magma reservoir  
relating to the 2011 Kirishima Shinmoe-dake eruption - charging, discharging and  
recharging process inferred from GPS measurements”（EPS 掲載論文）の 2 編を推薦す  
る。審査の経緯及び結果について理事会です承し，委員会提案通りに総会に提案すること  
となった。

#### 第 3 号議案 選挙規程の改訂（庶務）

日本火山学会理事選挙規定の改訂について，下司委員より改訂案内容について説明した。  
選挙権については維持会員及び学会員に限定することとし，またその他の部分において

若干の文言修正を行ったうえで庶務委員会提案を了承し、総会に提案することとなった。

#### 第4号議案 2016年秋季大会開催案（大会）

嶋野委員会より、2016年秋季大会の開催計画について、山梨県富士吉田市市民会館富士山ホールを主会場とし10月13日～15日に学術討論会等の行事を実施するとの開催計画案が示され、理事会として承認した。

#### 第5号議案「火山」バックナンバーPDFの公開について（編集）

橋本委員より、火山バックナンバー1991-2003年についてJ-STAGEでの公開を念頭において高品質でのPDF化作業について、作業内容及び費用見積もりについて説明し、理事会として作業を進めることで了承した。

#### 第6号議案 委員交代（防災）

吉本委員より、火山防災委員会の委員の変更が提案された。青山裕会員（北海道大学）を新規に加えること、および藤田英輔委員を三輪学央会員に交代する提案があり、理事会として了承した。

#### 第7号議案 事務局職員の退職金規定について（庶務）

事務局職員の退職金規定について、庶務からの提案どおり承認された。

### 委員会報告事項

#### 1. 庶務委員会

会員の入退会動向が報告された。2014年11月の臨時総会以降、維持会員1名、学会会員5名、一般会員5名の計11名、団体会員1件が新規入会した。また、維持会員1名、学会会員19名、一般会員1名の計21名が退会した。2015年5月の通常総会後の会員予定数は、維持会員275名、学会会員646名、一般会員71名の合計992名となる予定である。

2015年5月の通常総会后、38名の入会があった（維持会員3名、学会会員30名、一般会員5名）。また、18名が退会し、8月末日をもって8名の会員が会費未納により除名された。また、2名の会員が逝去された。以上により、総会時の総会員数は1020名である。また、定款及び細則の修正により、会員の内訳が定款に定める通り維持会員、学会会員および一般会員の3つに統合され、これまでの集計にあった名誉会員及び団体会員はそれぞれの区分に振り分けられた。

次期理事の選出にあたり、事業の継続性について確保するため理事の任期を4年に延長する提案が会長から行われ、実施に当たっての制度上の問題点や選出時の手続き等について議論が行われた。理事任期の変更については定款を変更しなければならないため、どのよ

うな手続きが適当であるか庶務で確認して秋の理事会までに問題点を整理して提案することとなった。

ホームページの改修を進めるに当たり、ホームページのみならず火山学会全体としての情報発信について組織的に行う必要があることから、事業委員会・防災委員会など関連する委員会で検討して広報担当の委員会をつくることが提案され、内容について検討することとなった。

## 2. 大会委員会関連

連合大会火山関連セッションについて開催状況が報告された。地球惑星科学連合より国際セッション開催の依頼があり、青木会員から volcano monitoring, 寅丸会員から volatile and volcanoes の2国際セッションを提案することとなった。

秋季大会の開催準備状況が報告された。会期は9月28日～30日を予定しており、予稿受付7月30日までを予定している。普及行事等については、富山大学オープンキャンパスの日程と重ねることで一般普及行事についても集客を見込んでいる。

2017年以降の秋季大会の開催準備について報告された。2017年10月別府市にて実施する案で検討中、LOCは京都大学大倉さん筆頭に組織することで進めている。2018年19年については勧誘中で、東北地方から複数候補を打診中である。

公募スケジュールについて、公募と勧誘の関係について検討した。理事会内での情報共有をおこない、効率的な開催地選定を行うことが報告された。

## 3. 編集委員会

火山論文等のウェブ公開について、CiNiiのPDFのカラースキャンへの入れ替えとウェブ公開について報告がなされた。スキャン作業について見積もりを取得し、2003年以降のすべてを公開する方向で準備している。現在「火山」すべてのページが掲載されているが、総会の議事録など記事を除くかどうかについて検討する。これに対して、OCR処理費用の上乗せについて質問があり、1ページあたり数円程度と思われる旨編集委員会より回答があった。火山発行時にPDF化しているものは画質等問題ないが、それ以前の36-48号ぐらゐを処理する必要があると考えられる。また火山の投稿論文については、受理されたものについては速やかにアップできるようにしたい。

また論文にDOIを付与することを検討していることが報告された。手間や費用について不明のためJ-STAGEに移行したところで再検討する。

編集規定等の改定について報告が行われた。編集基底には郵送投稿時の名残があるので、電子投稿の現状に合わせた記述へ改訂している。カラーページ料についての規定や引用に対するガイドラインなどを整備する。

編集状況報告。60-2号の発刊を作業中である。

#### 4. 火山防災委員会

1月22日に火山防災委員会を開催した。登山者の安全に対する対策、2015年連合大会セッション及びWSにおける議題、60周年記念行事に関連した防災関連の行事、秋季大会の防災シンポ等の行事について、および火山防災委員会の情報発信について、を議論した。防災委員会HPの立ち上げを行い、火山防災に関する一般市民向けの情報提供を行う方向である。防災シンポのパンフレットの作成費用については予算追加が存在するかもしれないため、秋季大会の予稿集の印刷費に包含できるかどうか、パンフの完成をみて再度検討する。

#### 5. 事業委員会

公演予稿集のウェブ上公開について検討を行った。他学会では即時公開されているものが多いため、オープンにアクセスできるようにしたい。最近の予稿集はPDFで公開されているので、公開することは技術的には困難はない。これに対し、現在は予稿集をウェブ上に公開することを前提に投稿していないので問題があるかもしれないとの意見があり、今後公開を前提とすることを明示する方向で検討することとなった。また、委員会からは2009年以前についても、過去のものもさかのぼって掲載したいとの意向が示されたが、過去のものについては著作権の譲渡の問題やそのほか掲載に同意が得られるかどうか検討する必要があるとの意見が出された。

学会全体のウェブサイトの改修と合わせ、検討を継続することとなった。

#### 6. 他学会関連委員会

4月6日に開催されたEPS誌運営委員会の内容が報告された。EPSについては現在Citation Indexが高い状態なので維持する努力を進めていること、投稿はほとんどが日本国内からであるが、Internationalに閲覧されていることが報告された。なお、火山学会からは前野会員にEPSの分析担当を依頼していることが報告された。また、2016年1月からJpGUと共同出版することとなっており、その実現にむけてJpGUと意見交換しながら進めてゆく方針が報告された。

#### 7. 国際委員会

IUGGからのIAVCEIの脱退問題については、双方の妥結案が示されたことが紹介された。ACVについて活動報告が行われた。ACVのトレーニングコースについては、2015年秋にfield training campを予定しており、ウェブサイトにて情報発信してゆく方針が報告された。

#### 8. 学校教育委員会

本年度も科研費が採択され、研究公開促進費80万円の配分であることが報告された。

今年度も地震火山こどもサマースクールを実施し、火山学会から前田裕太会員を実行委員に推薦した。2016年度開催については公募により4件応募があり、選考の結果南紀熊野に

て開催が決定した。今後も公募により開催地選定を実施することになる。実施体制について3学会で検討して申し合わせ、実施体制を整えた。

#### 9. 60周年記念事業委員会

委員会の活動状況について報告が行われた。また昨年秋の学会でのシンポジウムについて報告が行われた。内容については、火山学全体のレビューができた点おおむね好評であったとのことである。WS1については火山特集号の進捗が報告された。特集号でレビューについて執筆依頼を出して了承されたところであり、すべて総説で22件が予定されていることが報告された。WS2については関連委員会からの活動状況の取りまとめを行っており、報告書の内容について検討していること、また、WG3からキャリアパスセミナーの開催を計画しており、火山学会主催で連合大会時に実施すること、人財育成、防災研の特定研究集会を火山学会共催で実施することを予定している。

#### 10. 原子力問題

連合間に委員会を実施する予定で、議事内容については調整中である。名称変更後の委員会については、学会会員の間での情報共有を目的とする。また、川内原発裁判の判決については、火山学会としてはすでに昨年秋に提言を出したのでそれを踏まえることとして特に新規の対応はとらない。司法と火山学のつきあい方については今後も検討を進める。また、倫理綱領については作業中である。

#### 11. 財務委員会

2015年度予算については、メール理事会にて審議することとなり、予算の概要について説明が行われた。経常支出2680万円を予定しており、各項目内の予算余裕分は230万円ぐらいを計上している。必要額に対する差額は1200万円程度であるが、このうち、60周年記念事業や理事選挙など来年度特定の支出がいくつかあるため、実質的な赤字は200-300万円程度になると見込まれることが報告された。本年度の支出超過は例年に比べ100万円ぐらい過大である。このままで行くと今後数年で現在の繰り越し額を消費することになる。赤字化を防ぐための学会費値上げは避けるべきであろう。事業費の工夫と本質的な収入増を考えるべきである。年内にそれぞれのユニットでのコスト減を検討してほしいとの意見が財務委員会よりなされた。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成27年6月26日

議長 井口正人

議事録署名人 篠原宏志

市原美恵